

## 協働のまちづくり推進委員会（第1回）結果概要

日時：平成25年4月24日（水）18:30～20:00

場所：八戸市庁別館 2階 会議室B

本会議の結果概要を、次のとおり報告する。

### ■ 会議概要について

#### ○平成24年度事業の評価について

- ・平成24年度に実施された市民奨励金制度にかかる事業（5件）および、市民提案制度にかかる事業（1件）の評価について、意見交換を実施。

### ■ 今後のスケジュールについて

#### ○今後のスケジュール（予定）

5月25日（土）平成24年度実施事業 協働のまちづくり「活動成果発表会」開催

### ■ 出席者（敬称略） ※参考

- ・北向 秀幸 委員長
- ・浮木 隆 副委員長
- ・佐藤 博幸 委員
- ・五戸 保夫 委員
- ・齊藤 綾美 委員
- ・田頭 順子 委員
- ・西島 拓 委員
- ・市民連携推進課（4名）

## 第1回 八戸市協働のまちづくり推進委員会 議事録

日 時 :平成 25 年 4 月 24 日(水) 18 時 30 分～20:00

場 所 : 市庁別館 2 階 会議室 B

### ■次第

- 1 開会
- 2 委員長あいさつ
- 3 平成 24 年度事業の評価について
  - (1) 市民奨励金制度にかかる事業 5 件
  - (2) 市民提案制度にかかる事業 1 件
- 4 その他
  - ・ 5 月 25 日開催 活動成果発表会について
  - ・ 今後のスケジュールについて
- 5 閉会

### 次第3 平成24年度事業の評価について

- ・ 各委員の 24 年度実施事業に対する評価内容をまとめた資料に基づき、事務局より評価ポイントを絞って説明。
- ・ 市民奨励金事業（5 件）と市民提案制度に関わる事業（1 件）の評価について意見交換を実施。
- ・ 総評案は委員の意見を元に事務局で取りまとめ、後日委員へ確認することとした。

### ■初動期支援コース①

#### プレジョブ八戸／ぷれジョブ（障がいのある子どものお仕事体験活動）の実施

##### ■ 事務局

- ・ 評価される点として、八戸になかったぷれジョブ活動を行ったことに対する活動の普及、障がい児への理解促進、定例会や報告会・交流会を通じた情報交換などの継続性に対しての意見が多かった。
- ・ 意見・アドバイスとしては、今後の活動に対するアドバイス、PR方法、今後の継続に対する期待が挙げられている。

##### ■ 委員

- ・ 一所懸命活動している。いろいろなかたちで、障がいのある子供たちと社会との接点をつ

かもうということで、昔からいろいろな活動を、その時代時代で作ってきている。今、このふれジョブというのが、流行ってきているのだろうか。

- ・最初ははりきってやるのだけれども、長くやっていくということであんまりはりきり過ぎても息切れしてしまうので、その辺を少し考えながら活動して、消えてなくならないように少しがんばってもらえればよい。

#### ■ 委員長

- ・ こういう活動自体が人数やその他懸念されるところがいろいろある。今後の方向をどう考えているかというのは、実際の発表で聞いてみたい。

#### ■ 委員

- ・ 職場体験しているわりには、働かせたいという感じではないので、根本的に目的があいまいになっているという気がしている。
- ・ だから、障がいに対する理解者を地域に増やしていきたいという大きな目標のことから言えば、職場体験じゃないほうが良いような気がするのですが、目的がすれ違っている印象を受ける。
- ・ むしろ今の形態を生かすのであれば、今やっている定例会の人数を増やしていくような形で、自分たちを理解してもらう場にしていくというふうに変えていったほうが良いのではないか。そうしないとなかなか企業さんの賛同を得られないのではないか。期間も、のべにして6ヶ月ですから、企業さん側には、かなり負担ではないか。

#### ■ 事務局

- ・ 本当は八戸市という規模ではなくて、例えば、八戸市は24の公民館区割りがあるので、「ふれジョブ根城」、「ふれジョブ館」といったそれくらいの小さい規模でやりたいようだ。しかし、人がなかなかいないのが現状である。

#### ■ 委員

- ・ そのほうが目的を果たせる気がする。やはり身近なところから理解者を増やしていくことが大事だ。

#### ■ 事務局

- ・ 八戸市の規模としては、連絡協議会みたいなかたちで、全地区取りまとめて、連絡交換会の場にするのが理想のようだ。
- ・ その地域でなるべくやれば、交通費もそんなに掛からずできる。

#### ■ 委員

- ・ 各地区に事業所がそれだけあればいいが。

## ■ 委員

- ・ 今、障がい者の子を支援しようという観点からいくと、身体の障がい者たちのほうが、企業側からすると雇いやすいとか、体の不自由な人がむしろ職場確保するためには受け入れやすいみたいだ。知的障がい者のほうが、受け入れてくれる職場が少ない。

## ■ 委員

- ・ 知的障がい者も軽度であれば生産ラインの一部とか、あるいは軽作業ということで就労している人たちもいるし、そうでない人はいわゆる福祉的就労とか、大人になっても実習体験のレベルで就労させてもらっているというのものもある。

## ■ 委員長

- ・ 企業側では、こういう活動にというよりは、会社として障がい者雇用の姿勢を持っているところでは、生かそうとしてある程度体制を整える。
- ・ たまたま、知的障がいの方を雇っている会社を知って、見に行ったことがある。
- ・ 身近に障がい者がいると、根本的な人のあり方を見始める。どうしても企業は売りに目が行くけれど、そうじゃない所の目線を常に持つために、障がい者と働くということに企業側のニーズがある。
- ・ そうしないとどうしても、企業側も余裕を持って受け入れて、お客様ニーズに対して、そういう人としての目線で商売していこうという、そういう非常に志の高い会社さんをたまたま見に行く機会があったので、そうじゃない所だとなかなか、やっぱり生産性ということからいうと、どうしても形態が整いにくいかもしれない。
- ・ 八戸でもそういう所を作っていこうということで理解していたが、そこまでじゃなくて、あくまで障がい者側のニーズということであれば、そこをマッチングさせないと広がらない。
- ・ 障がい者をもし雇用する支援があるとすれば、もしくは体験していただくとしたら、人としての理解を社員に持ってもらうための場として活かそうという考え方である。そういうのがないと、どうしても狭い店で営業活動とかしてしまうので、その辺は、聞いてみたいところではあります。
- ・ ただ、体験ということであれば、企業側のニーズとマッチングしない場合もあるので、それこそ負担ということになる。

## ■ 事務局

- ・ 目的は体験であって、就職ではないそうなので。

## ■ 委員長

- ・ 体験でいい。私も障がい者の方とハイキングするという活動をやっているのでも、初めてそういう方たちにお会いした時は、非常にショックというか、ビックリした所があった。普通に勤めているうちはなかなか障がい者の方たちとお会いするという事はないので。

そういう意味合いであれば、企業の中に入ってもらうということは、いろいろな気づきがあり、企業としての体験としても価値が出てくる。

- ・ そういう意味では、どちらかといえば商工会、青年部や青年会議所は経営者の集まりなので、そういうところで主旨をお話ししないと、広がらないと思う。そういう所でも体験として受け入れて、社員さんの目線を広げるという意味でも、どうでしょうかというPRができると思っていた。
- ・ ○○さんの話を聞いていると、受入れる企業とマッチングで話がズレているなど感じたので、そのへんはぜひ、成果発表会の時に質問してみたいところだ。

#### ■ 委員

- ・ 障がい者に対する受け入れが、これだけ八戸は低く、これはスタート地点なのだと思う。
- ・ また、障がい者といっても、いろいろな障がい者がいる。車椅子を使う子とか、知的障がいだけじゃなくて今はやっぱり、ちょっと“気になる子”というのがいるので、そういった、どの部分の子供たちを引き受けるかで、またちょっと違うのかなというのを感じていた。
- ・ 例えば、第二養護学校に行っている子たちは、そういう体験があることを知っているのか。例えば、中学校であれば「グッジョブ」というのがありますが、養護学校とかそういうふうな所にはあるのだろうか。例えば、「はまなす（医療療育センター）」のような所ではそのような活動や職場体験というのを、やっているのだろうか。
- ・ もし、やってないのであれば、やっぱり施設でも、例えば30分だけでも浸透していれば、まだ立ち上げたばかりの小さい団体よりも、大きい団体がやっていくべきではないかと感じていた。
- ・ 同じ中学校までという対象者であれば、普通の中学2年生がグッジョブに来るなどの経験をするのと連動して、養護施設や学校も少なからずやっていくことによって、民間におりてくるのも、もう少し理解を広げながらやれるのではないかと思う。

#### ■ 委員

- ・ 他の団体なりをどう巻き込んで行くかというのが大事になる。
- ・ 学校に通っているのであれば、学校の情報も得ながらやって行かないと続かないのではないか。

#### ■ 初動期支援コース②

『中居林・グランドゴルフ・で・コミュニティ』実行委員会

／なかいばやし世代間交流グランドゴルフ大会

■ 事務局

- ・評価される点としては、世代をこえて、スポーツを通じながら交流・親睦を深めているという取り組み内容に対する意見があげられていた。
- ・意見。アドバイスとしては、今後継続していくためのアドバイス、アンケート実施についての意見が多かった。
- ・質問事項として、世代間交流という当初の目的の達成状況と今後の見通しについてもう少し詳しくお伺いしたいという意見があった。

■ 委員

- ・質問事項で一番下を書いてある、「世代間交流という当初の目的の達成状況と今後の見通しについてもう少し詳しくお伺いしたいと思います。」という意見が一番いいのではないかな。そういうことを当日伺ってもらえると、もうちょっとわかると思う。

■ 委員

- ・こういうイベントは他の町内会でもあると思うが、この町内会を採択した理由は？

■ 委員長

- ・世代間交流というのが地域のニーズとしてあって、何らかのアクションが、特に中居林地域はそういったニーズの中で「これをしよう」というのがあった。本来であれば先程の〇〇さんの話しのように達成の状況とか見通しとか、フィードバックが無ければ、ただの運動会、ゴルフ大会に近いという印象は当然受けられてしまうかなと私も思う。なので、そのご意見はいただいたほうが良いと思っている。

■ 委員

- ・中居林はたぶん、その体育振興会が地域のイニシアチブを取っているのだと思う。だからそれが前面に出てきている。

■ 委員

- ・このグランドゴルフが目新しいから採用ではなくて、世代間のほうで採用したということか。

■ 委員

- ・おそらく体育振興会が地域のいろいろなことのイニシアチブを、取ってくれていると思って。地域にいろいろな団体があるが、たぶん中居林は、そこが一番力があるのではないかなと思っている。

■ 委員長

- ・そこは聞いてみたいところだ。地域づくりの場合は、このようななんらかの体育、スポ

ーツイベント的なものも、実際これまでも奨励金の実績はあるのだが、特にグランドゴルフの場合、これまで継続的にやってきた事業なのか。継続とはいえないのか。

■ 委員

- ・ 道具を買ったので、初めてやったということか。道具を買うためにという感じにも見えてしまう。

■ 委員長

- ・ そこが弱い。イメージ的に報告の内容表現が非常に弱い。

■ 委員

- ・ 今後どうするかという所である。グランドゴルフというもので実行委員会を作っているのだから、それだけをずっとやっていくのか、体育振興会に持っていくのか、その辺どうするかだと思う。

■ 委員

- ・ しかし、体育振興会に入れようかっていう話しになったって書いてあった。

■ 委員

- ・ 体育振興会でやれる事業ではないかという話しにもなる。

■ 委員

- ・ 交付決定時の審査でもそういう話しはあった。グランドゴルフを通じてという目的があったので、じゃあいいでしょうかという話しになったのではなかったか。その目的が達成されたかどうかというのを、うまく書いていないのが残念だ。

■ 委員

- ・ せめて、アンケートがなくてもだいたい何十代くらいの方が何人参加されたのかまとめてあればよかった。重複の参加数しか載ってないので。

■ 委員長

- ・ おっしゃる通りだと思う。

■ 委員

- ・ こういうイベントで、アンケートを取るといってもなかなか難しい。天気が悪いから取れないというのもあるけど、「あー楽しかった」という後に「アンケートお願いします」と言うと、全然つまらなくなってしまう。モードがもう違う。アンケートを取るタイミングが大事だ。

■ 委員長

- ・ 今回は、奨励金をもらっているという所で事業計画に書かれていたアンケートは必須ですよという所を認知していないといけない。

■ 委員

- ・ こういう楽しい行事の場合は、どういう時にアンケートを取ったらタイミングがいいのだろう。

■ 委員

- ・ 終わってからの反省会みたいなのがあれば、そういう場で「どうだった？」と話し合いながら意見を聞けるかもしれない。

■ 委員長

- ・ では、5月の発表会の時はその辺を求められますということで、ぜひちょっと報告の中で、実績報告は数字だけではなく、もうちょっと詳しく…。

■ 事務局

- ・ その大会の結果を、もうちょっと詳しくということか。

■ 委員長

- ・ 結果というか、今後の方向を含めて。それが大事だと思う。

■ 委員

- ・ 世代間交流ということだったので、ではどういうメンバーが集まったとか、そういう内容を知りたい。

■ 事務局

- ・ 一般の部の36名の年齢構成が、どのくらいの幅、層があるかということ。

■ 委員

- ・ 交流できたかどうかということがわからない。

■ 委員

- ・ ただ勝負に走ってしまうと交流できない。

■ 委員長

- ・ そうですね。おおむね皆さんそのような感じだと思うので、5月24日の活動成果発表会の時に、お願いします。



## ■初動期支援コース③

### 八戸緩和ケアを考える会／緩和ケア 普及・啓発活動

#### ■ 事務局

- ・ 評価される点としては、地道な取り組みにより浸透してきているという継続性や普及性について、会員同士による支援や組織化して活動している内容や取り組みについての意見があげられた。
- ・ 意見・アドバイスとしては、今後の活動に対する期待、継続していく上でのアドバイス、PR方法についての意見が多かった。

#### ■ 委員長

- ・ この緩和ケアさんは今回で2回目の応募で、初動期支援コースへの応募は2回目までなので今回で終わりだ。

#### ■ 事務局

- ・ 1回目は広報誌『かたるべ』の作成とタオル帽子講習会で、今回2回目は講演会である。

#### ■ 委員

- ・ 実績報告には当日患者を抱える家族の方々が的確なアドバイスを受けられ感謝されたというコメントが入っているから、会員以外の方たちもそれなりに情報見て来ているのだと思う。どのくらい来ているのかわからないけど。

#### ■ 委員長

- ・ では、その実際の講演会の詳しい説明をしてもらいたい。

#### ■ 委員

- ・ 今回はその講演会で出しているのだから、それは聞いてもいいかもしれない。

#### ■ 委員

- ・ この緩和ケアで、この団体の方たちはこの緩和ケアの家、ハウスを建てるというのは、目的にあるのか。

#### ■ 事務局

- ・ ある。病棟を考えているようだ。

#### ■ 委員

- ・ 病棟を建てるのですよね。その場合、市民病院では佐藤先生がいらっしゃって、そのよ

うに呼んで来て、八戸にそのような科があるというのは、八戸市ではどう思っているのかを逆に知りたい。

#### ■ 事務局

- ・ 実は、昨年度の3月議会で同じような質問があり、病院の回答は、今現在予算がないし、それ以前に場所がないということ。それでなかなか、今すぐには難しいという回答をしている。

#### ■ 委員

- ・ 場所はたくさんありそうだが、やはり予算。
- ・ 佐藤先生の実際やってきたことを聞く機会があって、それこそ岩手のケアというか、実際に利用している方たちのビデオを見ることがあったが、そういったものを見ると、必要だということを感じる。
- ・ 緩和ケアはただ痛みをケアするだけなのかなというイメージがあるけれど、実際は末期がんを迎えた時という流れをもう少しいろいろなかたちで市民の人に働きかけることで、もっと理解が深まるのだろうと思う。
- ・ そういったことが緩和ケアの痛みを和らげる部分だけだと、認識されているのか、もう少しPR方法を変えながら、実体験している人の声を広めるような機会があれば、もっと理解できると思う。
- ・ ある会合では、「佐藤先生がいるうちだよ」って話をされている方がいて、それなのになぜ八戸は進まないのだと思いつつ何年か来ていたというのが、疑問にある。

#### ■ 委員長

- ・ 会とすれば、そこまでいけばゴールなのだろうけど、そういうことを考える人を増やすというのが、まず目的であるから2年続けて良い活動されていると思う。

#### ■ 委員

- ・ 活動とすればすごく良い活動で、それを地道に進めていっている部分がある。でも、「まだまだだな」という所だと思う。やり方もいろいろ考えながらやっていて、地道だけれど順調に進んでやっていると思う。
- ・ ホームページを見たけれど、結構面白い。いろいろなこと書いているので、それをもう少しちょっとアピールすればいいと思う。ホームページを見てもらえれば、もっとわかる。広報誌などにも、もっと大きく、ホームページはこんな感じですよと出せば良い。

#### ■ 委員

- ・ あとは市民大学講座などで佐藤先生を実際にお呼びして、市民の方たちに言っていただくと、もう少しインパクトがあると思う。

■ 委員長

- ・ 結局、理解者というか、知っている人を増やすということだからか。

■ 委員

- ・ どれだけの人に聞いてもらえるのか。実際に八戸市の市民病院にいらっしゃるのだから、そういった大きい講座で先生に、実際の現場の声を話していただければ感動するし、やっぱり必要なのだというのがわかるから、もう少し先生自身を外に出してあげたいという気持ちがある。

■ 委員長

- ・ 佐藤先生とは一度、直接お会いしたことがある。結構有名な方だ。

■ 委員

- ・ 有名だ。私も知らなかったが、こういうことを実際にやっているビデオを見せてくださったので、すごく良い事ことだと。病院の中で死ぬよりも、家族で見守られて最期を迎えるということについて、わかりやすい映像も持っていらしたので、もう少し八戸市として、せっかく、良い先生がいらっしゃるので、市民病院の先生として何かをやる講座というのもあっても良いのではないかと。

■ 委員

- ・ この団体さんの最終的に描いているのはたぶん病棟の確保…建設まで含めた確保だろうと思うが、いわゆる緩和ケアの活動そのもの、例えば家族に対する関わり方とか、ご本人に対する関わり方とかってというのが、それこそ実際に経験のある人たちが集まって立ち上げた団体なのでしょうから。
- ・ それで、多くの人にそういった必要性をアピールしていきたいということなので、実際のところは“器”は最終的に必要になるのだろうけれど、そういうチーム作りみたいなところを、どんどん具体的にしていって、活動の中から、「ああいうことも必要だな、こういうことも必要だな。」とどんどんわかることも増えていくような気がするので、ちょっと時間がかかりすぎている気がする。
- ・ 「キャンナス八戸」という団体をやっている方が、すでに部屋を確保して実際にアクションを起こした人がこの前新聞に載っていた。だから、“器”はあまりこだわらないで、まずやってみて、どういったことが必要になってくるのだろうかというところを、どんどん得ていくという意味でも、もう少し具体的な動きをしていったほうがいい気がする。視察に行ったり、講演を聴いたりという段階で時間がかかり過ぎている印象がある。

■ 委員長

- ・ この会を将来どういうふうにされたいのか、というところが実際現場で活動されている

方が、今の〇〇さんのお話しの通り部屋を確保するとか、そういう具体的なアクションまで本当に行こうとしているのかわからないですね。設立して2年経ったのでPRの段階で今は良いと思っているのか地道な活動で良いと思っているのか。

#### ■ 委員

- ・ この人たちだけで病院を作るわけにはいかないので、そういう関係にある方々とネットワークを広げていって、「この活動は緩和ケアの病棟作りましょう」というのであれば、作れば良いし。そうではなくて、ペアカウンセリングというか、自分達で興味のある人通しが広がっていく、一つの障がい者団体じゃないけれども、患者団体という感じでつながっていくほうが良いのかなと。一朝一夕に病院、病棟を作ろうというのは難しい。

#### ■ 委員

- ・ やはり市民病院で緩和医療科があるから併設しましょう、となるのが一番良い。そこまで持っていく盛り上がりをお方たちがやっているというのはあるから。

#### ■ 委員

- ・ 会として活動するだけではなくて、医療行政にどれだけ彼らの思いを啓発しながら、行政がそれを受け止めていかないと、単なる自己満足の活動になってしまう。そこは緩和ケアという、すごく求められている取り組みなので、医療行政というのは市民病院であって、どれくらい取り入れられているのかと感じる。
- ・ それから大きい病院でなくて個人病院でもいいから、そういう取り組みの動きがあるのかということ懸念している。

#### ■ 委員長

- ・ 2年経って、2回奨励金いただいて、今後どういうふうになれるか発表してもらったほうが良い。

### ■ 初動期支援コース④

#### こなかの応援隊 ひまわり／こなかの「かわら版」発行事業

#### ■ 事務局

- ・ 評価される点として、地域を知るきっかけになった、協力体制の強化につながったという地域貢献性、次年度も引き続き行うことになったという継続性・将来性に対する意見があげられた。
- ・ 意見・アドバイスとしては他団体との連携による役割分担、ホームページでの公開など今後継続していく上でのアドバイスが多かった。
- ・ 質問事項として、計画書にあるような、次の担い手が発掘できたかという“動き”を教

えてほしいというのがあった。

■ 委員

- ・ 毎月出すというのが本当に大丈夫なのかという感じで思っていた。内容を見れば、すごく良くできていてすごいと思った反面、今後続けるとなると大変なのだろう。「補助金もらったから一年間はがんばろう」と、がんばるとは思うのだけれど、その後もとなると、今後大丈夫かという気はして見ている。

■ 委員

- ・ 結構回数多いと大変だ。

■ 委員

- ・ 毎月やったほうが見るほうはいい。

■ 委員

- ・ 来年も決定と書いているけれど、学校支援協議会で決定だから。学校支援協議会がベースになっている？

■ 事務局

- ・ 小中野地区が地域密着型の教育を今までやっていなかった。それで、今年度からやることになって、その事業の一環としてやることになった。
- ・ 小中野の場合は、小学校と中学校の学区がほぼ同じで、地域密着型の協議会を小・中学校一緒にしたということだったので、今までの「ひまわり」としてやるよりは協議会のメンバーでやれるので、逆に人が増えたとみている。

■ 委員

- ・ どの団体でも毎月作るのはつらいものがあるのではないかな。

■ 委員長

- ・ でも実際やっている。

■ 委員

- ・ 実際やったというのは、本当にすごい。

■ 委員長

- ・ 実際、これだけ出したという、実物を見せられちゃうと、すごいパワーがある。

■ 委員

- ・ そういう趣味を持っている人がやっていると思う。

■ 委員

- ・ あまり立派なものを作らなくて、タイムリーな情報を流そうというふうに発想の転換ができれば、こういうふうにはできる。「こういうふうに行けばどうだろう…」とか、みんなで悩んでいけばなかなかできないけれど、「これでいいんだよ」という感じで進めていく。

■ 委員

- ・ そういう意味では、隙間を埋める情報発信になっている。

■ 委員

- ・ 「今月はこれしかやらないけど、これで良いのだよ」というノリでやればいいのか。

■ 委員

- ・ それぞれの情報を提供してもらっているのか。例えば小学校、中学校に「この期日までに、原稿をください」となると、可能かもしれない。自分たちで回収するのは大変だけど、ある程度、期日までに原稿を取り寄せるのであれば、あとは得意なところを並べれば良いから、それは良いと思う。そこはやはりネットワークがうまくいっていれば、どこでもできる。

■ 委員長

- ・ 意見としては「継続していくのが大変でしょう」という意見しか出ていないが。

■ 委員

- ・ 続けて出したということは評価して良いということか。

■ 委員長

- ・ あとは大変だけれど、次どうしますかと。
- ・ この団体に関しては、あまり報告会での質問は無い。

**■ 初動期支援コース⑤**

**美保野・金吹沢地域学校連携協議会／美保野・金吹沢里山づくり**

■ 事務局

- ・ 評価される点として、地域の財産を生かし使える目的が明確である、子どもたちの地域への帰属意識を育てた活動である、地域と学校とのコミュニケーションが密になったこ

となど地域貢献性、学校との連携についての意見や活動の仕方についての意見が多かった。

- ・ 意見・アドバイスとしては里山の復活に向けて継続してほしいという今後の継続・発展に対する期待、PRの必要性や大学との連携といったアドバイスがあげられた。

■ 委員長

- ・ 実際いろいろ、生物調査をやられているので、こういうのが大事だ。

■ 委員

- ・ これは、蝶々の専門家が入っているのだろう。

■ 委員長

- ・ 地域コミュニティの部分の奨励金についてはいろいろなやり方があるが、これは地域の持っている財産を見つけようという取り組みの一つになっているので、これは評価したいところだ。
- ・ 何か明確な目的がある。その辺が残っていく活動なので、参考になる。

■ 事務局

- ・ 今年度も申請するそう。やり続けるために、今年度は試験的にシイタケの栽培をして、うまくいったら、それを収入にして、山を再生していくのに還元していきたいということだ。

■ 委員長

- ・ 自立していかななくてはいけないので良いと思う。

■ 事務局

- ・ 自立する方法として、そういうのを少しずつ広げていきたいとのことだった。

■ 委員

- ・ 美保野は中学校がなくなるのか。

■ 事務局

- ・ 3月に廃校になった。

■ 委員

- ・ では美保野には小学校だけか。

■ 委員

- ・ ここだけじゃなくて、こういう地域は他にもあると思う。もしここが成功したら、じゃあうちも昆虫とか何か町おこしで、というようなモデルになれば良い。

・

■ 委員長

- ・ 魅力発見のやり方とすれば良い。
- ・ 「白銀のおしまこ」がそうだったが、だんだん無くなっていくものをきちんと残さなきゃという活動は、すごく大事だ。歴史だったり、生物だったり。ぜひ、活かしてもらってモデルにしてもらうというのも、その通りだと思う。

■ 委員

- ・ 何かやらないと、地域が無くなってしまう感じがする。

■ 委員長

- ・ 本当は地域の魅力、財産を見つける力というのが必要になってくる。その辺は、八戸に蝶があるのかなとか、歴史があるのかなとか調査する人というか、調査の仕方がわかる人を連れてきたりとかすると、やり方がわかる。あとは、コミュニティの方が参加してもらうとできる。
- ・ そういうやり方のモデルというか「こういう人知っているのだけど、こういう人呼んでこういうの調べられないかな。」というふうなネットワークが大事だ。
- ・ 実は明日公民館の先生と南部町を歩くのだが、その人は東京の人なのだが、公民館のこと良く知っている。だから、そうやって良く知っている人を連れてくると見方がわかる
- ・ それで僕はその人に見方を教えてもらって、今度自分がやろうという形で呼ぶ。そういう人が発見できれば、後はじゃあ誰を知っているかということでやり方ができる。それもモデルケースになるだろうということだ。
- ・ まちづくりで自然は初めてのテーマだったか。蝶々のプロ、昆虫のプロがいるのであれば、ネットワークをどこかで公開して作らないと、魅力を発見できないと思った。

■ 委員

- ・ 今までない事業ですから応援したい気持ちがすごく強い。
- ・ 美保野中学校がなくなって、エネルギーがだんだん小さくなってきているので、学校を巻き込んでというのは、すごく良いことだ。裏には親がいるし、地域もある。学校から子供たちを表に出して活動させたから、とても面白い内容だと思っている。
- ・ ただ、今後どうなっていくのだろうと気にしているところもある。

■ 委員

- ・ 子供がもっと減っていくとどうなっていくのかなという不安もあるけれど、これは面白い。



■ 委員

- ・ 応援したい気持ちが強い。

■ 委員

- ・ 例えば子供が少なくなっても、こういう基礎があるから、人を取り込める。子供は今、小学生しかいないかもしれないけど、もしゼロになったとしても、こういう基礎があれば人を呼び込めるし、まちは活性化すると思う。

■ 委員

- ・ 美保野に家を建てると、こういう楽しいことがあるよっていう…。

■ 委員

- ・ ここは自然があって足を運ぶ人がたくさんいけばまちがよみがえって面白いのかな。

■ 委員長

- ・ そういう活動を残す必要があると思う。ぜひ、地域コミュニティにはそういう申請が出てくればと思っている。
- ・ 初動期支援に関しては以上である。
- ・ 副委員長、総評をお願いしますか。初動期支援の場合は、メッセージ性を伝えればある程度決まる。

■ 委員

- ・ 初動期は、必死さが伝わってくる。一所懸命やろう、税金である補助金のためにちゃんとやろうというのが、伝わってくる。

■ 委員長

- ・ 初動期支援コースは地域コミュニティに関することと、オーダー的なニーズに関する市民活動と両方あった。活動成果発表会に向けて、今の意見交換でよろしいか。

■ 事務局

- ・ 本日の意見交換を事務局でとりまとめて、メールで皆さんにお示ししようと思っている。

■ 委員長

- ・ では全体で共通することは後で確認してもらって、他に意見があれば出してほしい。今後の方向性についてはどの団体にもお示しいただくということは思った。
- ・ 奨励金もらって二度目のところもあったし、今後の方向性がないと、25日に関しては質問がでると思うので、お願いしたいです。

### ★初動期支援コース総評案★

- ・初動期支援コースの5団体は、障がい児支援、緩和ケア、地域づくりに関する取り組みであった。
- ・特に地域づくりについては3団体から発表があったが、それぞれ異なる視点からアプローチした活動をみることができた。
- ・どのテーマも、今の時代のニーズを反映したものであり、今後さらに活動の活発化が期待される内容のものである。
- ・こうした活動を継続していくためには、一部のメンバーだけで頑張るのではなく、より多くの協力者を集める工夫や、他団体との連携を深め、互いに協力体制を整えるなどの関係づくりが大切である。
- ・活動を継続していくことで、団体の知名度や、活動に対する世間の認識が高まり、支援者、協力者が増え、活動がさらに充実したものになると思う。
- ・今後も是非、今回の経験を土台にし、今後どうしていきたいのか方向性を定め、活動を継続していただきたい。

### ■市民提案制度 市設定テーマ

#### フィットネスクラブブイング八戸、はちえきキャンパス in 八日町、国保年金課

#### ／元気応援！お得一ポン

##### ■ 事務局

- ・評価される点としては、今後の活動の基礎となるコミュニケーション、理解が深まった点、市民の健康に対する意識向上につながったことが意見としてあげられた。
- ・意見、アドバイスとしては、参画企業を増やすこと、公民館での開催、役割分担の仕方、クーポン内容、利用の仕方等今後継続する上でのアドバイスが多かった。

##### ■ 委員

- ・事業所と行政との関わりというのは、どういうふうなスタンスなのか？企業のバックに行政がいるのか、企業と行政が対等な関係で我々市民に関わっているのか？関わり方のスタンスというのは、どうなっているのか？

##### ■ 事務局

- ・協働のまちづくりという理念から考えると、基本的には両者対等な立場で進んでいる。

##### ■ 委員

- ・市民たちは、どういう受け止め方をしているのか。

■ 事務局

- ・ 市民サイドから見た調査はやってない。
- ・ アンケートはあくまで、クーポンを利用した方だけである。
- ・ クーポンを利用した方がどう思っているかというのも、アンケートでは踏み込んでいない。
- ・ クーポンの期限が8月までということで、中間報告が出ている。まだクーポンを利用していない方もいらっしゃる。

■ 委員

- ・ 利用したのは400人だったか？

■ 事務局

- ・ こちらの実績報告書をご覧頂きたいが、3月末現在で405人が利用している。

■ 委員

- ・ クーポンは対象者に送り、対象者で使った人は405人。クーポンに慣れていなくて、送られた人がこれは怪しげだと思って捨てたりしないだろうか。

■ 委員

- ・ もとからの発想は、クーポンが欲しいから行くようになったということだと思うけれど、もらったクーポンを使ってないということであれば、まだ期限があるとはいえ、全然効果がなかったのではないのかということになると思う。
- ・ 当初そのクーポンもどういのが良いのかという話して、商品で買えるものという話しも出たと思うが、そうではなくて健康のことも考えてという話して進んだと思う。
- ・ どちらを取るのか難しいと思うが、その受診率を上げるということで考えれば、もう少しクーポンの内容を考えたほうが良いのではないのかという気がする。

■ 委員

- ・ はちえきキャンパスとウイングと、グランドサンピアとシーガルビューが優待施設になっている。

■ 委員

- ・ たぶんお風呂の利用がほとんどだったのではないかと思うが。

■ 事務局

- ・ はい。96.7%がリラックスクーポンを利用している。

■ 委員

- ・ そういのだと使うけど、他はほとんど使わない。このクーポン券自体の魅力を高めな

い限りは、最終的には目標につながらないのではないか。

■ 事務局

- ・ この間新聞にも載っていたが、今年度は事業者を6事業として継続し、その中でボウリング場の割引だとかコース内容が増えている。昨年度の提案制度をきっかけに、だんだんと膨らみが出てきている。

■ 委員長

- ・ 他市の中ではサービスはかなり多様だった。

■ 委員

- ・ これをもらえるから行こうの前に、まだもらっても行ってないという段階だと思う。もらっても使ってない、せっかくもらったのに、ほぼ使っていないという段階。だから、クーポン券自体の魅力を高めないことには、どうしても次につながっていかないと思う。欲しいから行こうまで行ってない。

■ 委員長

- ・ クーポン雑誌とかいっぱいあるが、確かにクーポンって全部使わない。

■ 委員

- ・ メニューがもっと、増えれば良いかもしれない。

■ 委員

- ・ そうだと思う。最初はしょうがない。今後、増やしていくというのは、良いと思う。

■ 委員長

- ・ 他市の場合はすごい量だった。方向としては、事業者を増やしてというのは良い。八戸ではない別な地域で似たような事業をやっている所があって、それを参考に、始めは事業者がすごい数あって、30、40くらいの事業者が確かクーポンに参加した。

■ 委員

- ・ どのような内容か。

■ 委員長

- ・ サービス業である。

■ 委員

- ・ カラオケとかはダメなのだろうか。

■ 委員長

- ・ いや、いいのではないだろうか。

■ 委員

- ・ そちらのほうは何でもあった。八戸の場合は健康に関することに限定にしたので、そんな集まらなかった。その辺をどう考えるかだと思います。

■ 委員長

- ・ もし協働という形でやるとすると、報告しなければいけないので、企業側のメリットとしてこのクーポンをどう考えるかということによる。
- ・ 本当にそういう意味では、はちえきキャンパスさんとウイングさんにはがんばっていただいたところもあるので、そこは感謝しなければいけない。
- ・ クーポンの魅力として事業者を増やしたほうが良いのであれば、それも一つの手だ。

■ 委員

- ・ そのお得一ポンを始めるきっかけになったということでの評価はあるから、クーポンの利用先をどうしていくのがよいのか。健康がテーマだから、やはりクーポン使えるところも健康に関するところであるほうがよいのだろう。例えば飲み屋ではだめなのだろうから。

■ 委員長

- ・ だから実際問題として、企業側としてのメリットがなければ協働として成り立たないの。また継続していくという方向に今あるという話も聞いたので、協働する時に、前回も人手を取られてしまつとなかなかキツイものがあるので、そこは企業と協働する時はなるべく企業側にとってのメリットは何か考えて、うまくサポートしていただければ、数は増えていくと思う。
- ・ 商工会でも実はこういったクーポンを配ろうとするのだが、一度やったことがあるが、あまり反応がなかった。その時は確か何万か払った。

■ 委員

- ・ ウイングさんやはちえきさんはどのくらい利用されたのか。

■ 事務局

- ・ 405人の3%だったので、3月現在で13、4人。

■ 委員

- ・ ショックな数字だ。

■ 委員

- ・ お試しはあったけど、実際にはメンバーにはならなかったと書いてあった。

■ 委員

- ・ 協働事業者はどうやって決めたのか。

■ 事務局

- ・ まず説明会をする。説明会をして、ホームページや「広報はちのへ」で募集をして、応募した事業者と関係課と話し合いをして、事業化を進めていく。

■ 委員

- ・ 説明した時には結構来たのか？

■ 事務局

- ・ この時は1社、2社くらいである。

■ 委員

- ・ 1社2社から、これだけ増えたということか？それとも説明を聞いて、やる気になった会社か？

■ 事務局

- ・ 国保年金課で打診をして、その業者さんが来たというケースも考えられる。

■ 委員

- ・ 2社は少ない。

■ 委員

- ・ 参加企業さんのメリットが一方的にあるというか自分たちの普段やっているサービスだから別にコストアップになるようなものではない。あとは料金が半分になったりする。それだけで、費用とかリスクとか責任の分担とかという所で、あまり参考にならないケースではないかなという気がしている。きっちりと役割分担して全部やると思う。
- ・ 私の印象としては、費用は国保年金課のほうで持って、通常行っているサービスをタイアップしてくださいという感じの事業展開になっているという印象です。
- ・ だから、成果のはかり方としては受診率のアップだと思うのですが、そこが確認できるようなスタートをかけてないという所も、やっぱり欠けていると思う。
- ・ やはり受診率を上げるということだとすれば、現状こうだからこれをやることによって、受診率がどう上下したかというふうに成果確認しなければいけないので、そこができな

かったというのが、大きく欠けている部分だと思う。

- ・ 事業者さんのほうは、コストアップするようなタイアップのしかたではないので、すごく良かったのではないかという気がする。

#### ■ 委員長

- ・ コストが発生するような事業では、こういうのはなかなか参加できない。事業化にあたって、何度か協議をしているので、そこに社員さんが来ているということと、この成果発表会にも出席するため、その辺の人的コストは発生している。
- ・ あとは実際に、例えばこのウイングさんもそうですけど、あくまで割引したところでコストは発生しないので参加できるところがある。

#### ■ 委員

- ・ これは費用負担することによって、企業側も取り組む姿勢が違ってくるような気がする。なにか物をプレゼントして商品の認知度をはかるのもそうだが、タダで配られると、もらった側はあまり印象に残らなくて50円でも払った場合のほうがむしろ後々ありがたみがあるということが結構あるので、タダでやらないほうが良いと思う。
- ・ 私も営業を長くやって来たので、真剣に取り組むためにはそれなりの費用もかけて、リスクも考えながら大きく真剣みも違ってくるという面が、結構ある。

#### ■ 委員長

- ・ そのへんの塩梅が、ウイングさんとはちえきキャンバスさんがどの程度の感じていたのか。そこは報告会で発言していただこう。

#### ■ 委員

- ・ 特定健診国保ドッグを受けた方にクーポンということだけれど、既存のユニバースやローソンのようにポイントチャージできるほうが今流行りな気がする。そうすると使い勝手が良いけれど、それだとお金あげているのと一緒にだからダメなのか。
- ・ 役所がやることは難しいけれど、既存のポイントが流行っていることに乗ったほうがいいと思う。

#### ■ 委員長

- ・ 意見を分類していくと、ある程度方向が見えると思う。
- ・ 要は、「クーポン自体の問題というか、魅力があるのか？」という所の話だ。
- ・ もしこのスタイルで行くのであれば、クーポンの魅力を挙げていくということもあるだろう。クーポンの魅力と利用のしやすさというのは、全部同じ領域だと思う。
- ・ あとは、実際の受診率というか健診に対してこのやり方で果たしてマッチングしていたかという所、この二つだと思っていた。
- ・ ただ来年も、一つの事業として続けていくのであれば、その魅力をあげていくという所

と、受診率という事に関してきちんとはできないかもしれないが、事業を行った上でのストーリーが見えるものにしてほしい。やったけれど、なんかモヤモヤとした感じでいつも報告を受けてしまうことになるので、そこはなんとかしてほしい。

■ 委員

- ・ 直接市民に「何で使わなかったの？」っていう、追跡調査は個人情報で難しい。本当はそこが聞きたい。

■ 委員長

- ・ 手段はないのか。でも、あげた人がわかるのか。

■ 委員

- ・ あげた人はわかるのか？クーポンは郵便で送るのか？

■ 事務局

- ・ 郵便で送る。

■ 委員

- ・ 送った人に「使いましたか？」って聞いても、送られて来たのもわからないという人もいるかもしれない。

■ 委員

- ・ この国民健康保険の国保ドッグとか受けるのは、手続きは簡単なのか。簡単じゃなかったような気がする。国保年金課にわざわざ来なくてはいけないのでは？手続きの仕方が、みんな面倒くさいと思っているのではないか？

■ 委員

- ・ それは国保年金課の課題だ。

■ 委員

- ・ 出向いてまでということ結構難しいのだと思っている。家庭にポンと届いてというものと良いけれど、国保の場合は特にお年寄りとかになると、なかなか受診率も上がらないのではないか。社保だと必ずというのがあるけれど、そういったところの手続き方法とか、必ずここに来なくてはいけないとかというのはめんどろうだ。

■ 委員

- ・ 電話で簡単に、機械が対応して「何とかは1番、何とかは2番を押してください。…予約を受け付けました。」とか、そういうふうなのはどうだろう。高齢者はそれではダメか。



## ■ 委員

- ・ 年齢層にもよると思うけれど、何歳以上だと、もっと簡素化するとか、そういうかたちだともっと利用できるのか。

## ■ 委員長

- ・ 議論はいろいろ出たけれど、確認していただき、25日の発表の参考にしていただきたい。それぞれの事業について、皆さんからいろいろご意見いただいたので、それでは他にご意見が無ければ、今日の話し合ったことをまとめていただいたものを、メールで皆さんに送るので、よろしくお願いいたします。

### ★市民提案制度総評案★

- ・ 事業者と行政が共に情報共有を図りながら、互いの役割分担の下に連携して事業を進められた事業である。
- ・ 市民から健診について問い合わせがあったり、事業者から参加希望の申し出があったり、目標としている市民に対する健診受診への関心を高めることや、健康を応援する企業を増加させることにつながってきている。
- ・ 一方で、健診受診者が伸びなかったこと、クーポン利用者が少なかったこと、スポーツ施設の利用が少なく、運動教室に通うきっかけづくりまでは至らなかったことなど、達成できなかった目標もある。
- ・ 今後参加事業者を増やし継続していくということから、課題となったクーポン内容・利用方法、PR方法を随時意見交換しながら、ひとつひとつクリアしていってほしい。
- ・ 健診による早期発見、早期受診、医療費削減は全国的な問題であり、他都市でも同様の悩みを抱えている。今回の事業で目的とした「市民の健康管理への意識を高め、心身ともに健康で住みよい社会の実現」を目指すためには、ある程度時間を要することと思われることから、市民にこの制度が認知され、活用されるよう工夫をこらし、他都市へ紹介できる好事例となることを期待している。

## 次第4 その他

### ■ 事務局

～今後のスケジュールの確認～